



## (別紙)

### 協賛企業各社コメント

木村 元彦（株式会社ジェイ・ブロード代表取締役社長）

このたび、「東京 2025 デフリンピック」のトータルサポートメンバーとして協賛させていただきました。弊社では、障がい者採用支援事業「クローバー」を発足し 21 年目を迎えました。クローバーの葉は 4 枚そろって幸福がもたらされると言われています。障がい者の方々とその関係者、企業の 3 方にとってより良い雇用を創出するために、弊社が四葉のクローバーの 4 枚目の役割を担いたいという願いを込めました。「仕事」のカテゴリーで障がい者・健常者が分け隔てなく、誰もが自分らしくいきいきと暮らしていける共生社会の実現をめざしています。

デフリンピックのビジョンである「“誰もが個性を活かし力を発揮できる”共生社会の実現」のために、スポンサーシップを通じて、デフリンピックおよびデフスポーツのすばらしさの広い認知に努めてまいります。最後に本大会の成功と選手の皆さまのご活躍を心からお祈り申し上げます。

岩橋 清勝（リオン株式会社代表取締役社長）

このたび、「第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025」の開催に協賛させていただくこととなり、大変光栄に思います。

弊社は、聞こえのトータルブランド「リオネット」として、聴覚検査機器や補聴器などの医療機器を製造販売している会社です。80 年近くにわたり、一人ひとりの聞こえに寄り添い、生活の質の向上に貢献してまいりました。デフリンピックの「デフスポーツの魅力とその価値を広く伝え、社会全体とのつながりを深める」というビジョンに、弊社の社会貢献を事業の中心に据えた活動が深く関わっている事を改めて認識しつつ、第 1 回大会以来 100 周年の記念すべきこの東京大会を支えてまいります。

最後に、デフリンピックを通じて、社会全体が一体となって多様性とインクルージョンの重要性を再確認する機会となることを願っております。

谷 信（住友電設株式会社取締役社長）

このたび、「第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025」において、トータルサポートメンバー契約を締結いたしました。1924 年のパリでの第 1 回大会から 100 周年、かつ、日本では初開催となる記念すべき本大会に関わることができることを大変光栄に思っております。

弊社は、ダイバーシティへの取り組みとして、多様性を尊重し、障がいのある方々も含めたすべての社員にとって安全で働きがいのある職場づくりを推進しています。その一環として、社員として勤務するデフアスリート 3 名の競技と仕事の両立支援はもとより、デフスポーツの認知度向上や理解を深める活動にも取り組んでおります。

選手の皆様の日頃の努力の成果を十分に発揮されるとともに、本大会が、多くの方に夢や希望を与えられるような素晴らしい大会となること、そして誰もが個性を活かして力を発揮できる共生社会の実現の後押しとなることを心よりお祈り申し上げます。



長谷川 大悟（アデッソ株式会社代表取締役社長）

私たちアデッソ株式会社は、東京 2025 デフリンピックの公式協賛企業として参加できることを大変嬉しく思います。デフリンピックは、聴覚障がいを持つアスリートの皆様が活躍する素晴らしい舞台であり、私たちの製品がそのサポートの一助となることを願っています。

当社は主にクロック製品を取り扱っておりますが、中でも特にご紹介したいのが、振動式の目覚まし時計です。音ではなく振動で目覚めを促すため、聴覚に不安を抱える方々でも安心してお使いいただけるよう設計されています。アデッソは、これからも「まだこの世にないが、あったらきっとお客様の心を打つ商品」を創り続け、お客様の多様なニーズにお応えしてまいります。

この大会が、選手の皆様の努力を広く社会に伝える素晴らしい機会となることを、心より応援しております！

スコット・キャロン（株式会社ジャパンディスプレイ代表執行役会長 CEO 兼 取締役）

このたびはトータルサポートメンバーとして「東京 2025 デフリンピック」をサポートできますこと、大変光栄に思います。

当社は「今までにない発想と、限りない技術の追求をもって、人々が躍動する世界を創造し続ける。」を企業理念とし、世界初、世界一の技術の開発に取り組み、社会に貢献する製品を提供することを目指しています。本大会においては対面する人との間に設置し、音声文字起こし／翻訳システムとして利用することによって、文字化された会話内容を読み取りつつ、画面越しに見える表情や仕草から相手の気持ちを感じながらコミュニケーションを行うことが可能な透明インターフェイスを提供し、この素晴らしい大会を支援いたします。

今回のスポンサーシップを通じ、世界中のすべての人々が共にスポーツを楽しむことで、日本初開催、100周年となる節目の本大会がインクルーシブな社会の実現の礎となることを心からお祈り申し上げます。

清水 大輔（株式会社リードビジョン代表取締役）

デフリンピック 100 周年、初の日本開催となる記念すべき大会にサポートさせていただけることを大変光栄に思います。

弊社は東京、神奈川、千葉、埼玉に補聴器の専門店ヒヤリングストアを運営しております。補聴器ユーザーである弊社代表自身の経験から、補聴器がメガネのように抵抗なく着けられる社会の実現を企業理念とし 21 年前に創業いたしました。人と人、人と社会を繋ぎ、積極的な社会参加を支援していくことが弊社の役割、責任であると掲げていることから、今大会のビジョンである「デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会をつなぐ」「誰もが個性を活かし力を発揮できる共生社会の実現」に大変共感、共鳴いたしました。

多くの方が各競技観戦に足を運ばれ、感動や勇気、多様性理解の輪が広がること、東京都が世界におけるインクルーシブな魅力に溢れる都市になることを願っております。スタッフ一同、本大会の盛会を心よりお祈り申し上げます。



中静 敬一郎（岡山放送株式会社代表取締役社長）

私たち岡山放送は、1993年から「手話は言語」という理念のもと「情報から誰一人取り残されない社会」の実現を目指し、ろう者とともに手話放送の制作にあたっています。特にスポーツにおいては、アスリートの奮闘や人間ドラマ、記録への挑戦など多くの人を魅了し感動を共有する“実況中継”を全ての人に届けられたらと考えています。そのためにろう実況者の育成組織「OHK 手話実況アカデミー」を立ち上げ、テレビ局のノウハウを生かした“手話によるスポーツ実況”に取り組んでいます。言葉の意味をくみ取り、感情を伝える手話言語だからこそその実況は、ろう者だけでなく健聴者にもスポーツの臨場感と魅力を伝えると期待しています。

スポーツの持つ可能性は無限大です。誰もがスポーツを楽しめる社会は、必ずや障壁のない社会の象徴となるはず。その一助となるよう、30年以上手話放送を継続するメディアの立場から大会を全力でサポートさせていただきます。

上田セシリア（アマゾンジャパン合同会社 コーポレート人事本部 ディレクター）

「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025」のトータルサポートメンバーとして、100周年大会であり、かつ日本で初めて開催されるデフリンピックをサポートさせていただけることを大変嬉しく思います。

Amazonは地球上で最もお客様を大切にする企業になることを目指しています。そのためにはAmazonが多様性のあるチームであり、お客様のためにさまざまなバックグラウンド、アイデア、意見を創作に取り入れていくことが重要だと考えています。Amazonはダイバーシティ（多様性）、エクイティ（公平性）、インクルージョン（包括性）を重視しており、企業としての成長とともにそれらのインパクトを拡大させる方法を常に模索しています。

この度の貴重な機会を通じて、多くの皆様にデフリンピック並びにデフスポーツを知っていただき、参加選手の多様な活躍をご覧いただけることを楽しみにしております。本大会の成功を心より祈念しております。

進藤 整是（株式会社キャスト・ワークス代表取締役）

「東京2025デフリンピック」の開催に際し、このような協賛の機会をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

弊社は「手話オンライン講座」の開講を通じて、手話技能の向上を目指す学習者の皆さまと日々歩み続けております。そしてこの度は、聴覚障がい者のスポーツの祭典であるデフリンピックを応援させていただけることを、大変光栄に思っております。

デフリンピックは、世界中の聴覚障がい者アスリートの努力と情熱が結集する特別な舞台です。この大会が、聴覚障がい者スポーツの素晴らしさをより多くの人々に伝える契機となり、社会全体において多様性が尊重され、相互理解がさらに深まることを願っております。

私たちも、引き続き手話コミュニケーションの普及活動を通じ、社会における人々の交流の可能性を広げてまいります。東京2025デフリンピックの成功をお祈りするとともに、選手の皆様のご健闘を大変楽しみにいたしております。



小坂 武史（株式会社ティーケーラボ代表取締役）

このたび、「第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025」の協賛スポンサーとして参加できることを大変光栄に思います。

デフリンピックは、スポーツを通じて人々が連帯し、新たな視点と理解をもたらす素晴らしい機会です。弊社は、スポーツを通じて社会的課題に取り組む企業として、本大会を支援できることに意義を感じています。

今回の協賛を通じ、デフリンピックの認知向上に貢献し、聴覚障がい者スポーツの普及と価値向上に尽力できること、また、本大会が成功し、選手の皆様が最高のパフォーマンスを発揮できる環境を提供できることを、心よりお祈り申し上げます。

全ての人が共生できる社会の実現に向けて、私たちのサポートが未来につながることを期待しております。

山田 亜紀子（富士通株式会社 富士通研究所 コンバージングテクノロジー研究所長）

この度「東京 2025 デフリンピック」をともに盛り上げられること、大変嬉しく思います。

弊社は、マテリアリティの一つに、顧客・生活者体験の向上をはじめとする「人々のウェルビーイングの向上」を貢献分野として掲げ様々な取り組みをしており、その1つとしてこれまで、ろう・難聴者との共創・協働による「Antenna（アンテナ）」「エキマトペ」を開発してまいりました。

Antenna は音をからだで感じるインタフェースとして、スポーツ観戦、音楽ライブなど様々なイベントにおいて、ろう・難聴者と聴者がともに臨場感や一体感を楽しむ体験を生み出しています。

デフリンピックを通して、多くの方に障害について知ってもらい、DE&I 社会への一歩となることを心から期待し、これからもその推進力となるよう貢献してまいります。